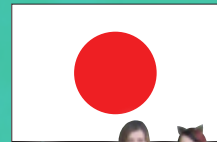


# 事業



きむら こうき  
**木村 公貴**  
(厚陽中学校3年)



一番驚いたことは、街中にごみがほとんど落ちていないことです。外国から「日本はきれいだ!」と言われますが、実際は日本の方がごみが多いように感じました。何でも日本が一番だと思っていた自分が恥ずかしくなりました。また、日本は島国で他国の文化をうまく受け入れることができずに独自の文化で発展したように思いますが、他国の日本より優れているところはたくさん吸収していくべきであると感じました。山陽小野田市も他市の良いところをたくさん取り入れ、さらに住みよい街になって欲しいです。この派遣では今まで全く感じたことがない刺激を受け、予想をはるかに上回る貴重な経験ができました。また、精神的にも強くなれたと感じています。



やまがた もとこ  
**山縣 元子**  
(竜王中学校2年)



今回の派遣事業に参加できることを知ったとき、公の場に立つことが苦手で物凄く大きなプレッシャーを感じました。一緒に派遣される人たちとも面識がなく、なおかつ最年少だったので、派遣の目的が達成できるかという心配もありました。しかし、事前研修やオーストラリアでの生活を通し、壁を作っていたのは私の方かもしれないということに気がきました。そして、コミュニケーションをとにかくたくさん取ることが、正しさを追求することよりも大事だということを学びました。そう気付けたことが、とても嬉しかったです。今回この派遣事業に携わった全ての方々のご支援に感謝しながら、この経験を長い人生に役立てていきたいと思っています。



まえだ たくみ  
**前田 拓己**  
(埴生中学校3年)



ホームステイをさせてもらった Mcfarland 家は、とても明るく、僕もその渦に巻き込まれるようにして入ってきました。2日目には完全に家庭に溶け込み、ホームシックには全くならず、ずっとここにいたいと思うほど親くなりました。別れの時には、陽気なホストマザーが涙を流しながら「You're good boy!」と僕をハグしてくれたことが、とても嬉しかったです。今回、Mcfarland 家にホームステイできて、とても幸せでした。このような経験ができ、この事業に携わった全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を生かして、もっと積極的に一歩を踏み出し、どんなことにも挑戦する自分になりたいです。



わさもと ゆりな  
**脇本 由理奈**  
(高千帆中学校3年)



私がこの派遣で一番驚いたことは、学校や自宅での勉強のためにパソコンが多用されていたことです。また、授業中はみんな恥ずかしがらずに何でも話す姿や自主的にメモを取る姿を見て感心し、見習いたいと思いました。また、バディの Sarah は学校の勉強以外に You Tube で日本語の勉強をしており、私は時々「習っていない」と言い訳をしていたことが恥ずかしくなりました。レッドクリフの生徒たちが『ひらがな・カタカナ・漢字』を勉強する姿を見て、自分ももっと頑張らないといけないと感じました。今回の経験や発見は、今までの考え方や常識を大きく変えることばかりでした。それらをこれからの生活に生かしていきたいと思っています。